

令和6年度香取市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事概要

開催日時： 令和6年10月25日（金） 午後1時30分から午後4時00分まで

開催場所： 香取市役所 7階全員協議会室

出席委員： 18人

<委員>五十音順

熱田昇委員、石川浩幸委員、伊藤寛委員、大川裕志委員、加藤健之委員、金親孝夫委員
川村崇委員、椎名宥心委員、鈴木恵子委員、高橋弘道委員、竹蓋伸六委員、田山歩委員
堂下浩委員、橋本欣也委員、橋本富清委員、古屋秀委員、宮國健委員、山之内俊雄委員

<香取市>

総合政策部 松田部長

企画政策課 石毛課長、高岡班長、埴田主査、金田主任主事

総務部総務課 安原班長

議 事：（1）第3期香取市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び香取市過疎地域持続的発展計画の効果検証について【資料1、資料2】

その他：（1）地方創生臨時交付金事業について【資料3、資料4】
（2）デジタル田園都市国家構想交付金事業について【資料5】
（3）地域経済に係る意見交換【資料6】

配付資料：資料1 第3期香取市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び香取市過疎地域持続的発展計画の効果検証結果
資料2 第3期香取市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び香取市過疎地域持続的発展計画の成果指標の達成状況
資料3 令和5年度地方創生臨時交付金の効果検証結果
資料4 令和6年度物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金事業
資料5 デジタル田園都市国家構想交付金効果検証結果及び活用事業
資料6 意見聴取結果

議事内容：

- 1 開会 企画政策課政策班長 高岡
- 2 会長挨拶 香取市まち・ひと・しごと創生推進会議 会長 堂下 浩
- 3 新委員紹介
- 4 議事

(1) 第3期香取市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び香取市過疎地域持続的発展計画の効果検証について【資料1、資料2】

資料1、資料2に基づき、事務局から説明。

内容について質疑応答

【竹蓋委員】

- ・3-6(1)⑥妊婦及び乳幼児の健康増進

今後の取組として、県が設置している発達障害者支援センターの利用促進と周知を図ると健康づくり課の回答があるが、香取市の現状を把握できているとは言えない。自身が理事長を務める「コスモスの花」で児童発達センターを21年間運営しており、本来各自治体が設置する施設であるが、香取郡市の自治体から委託を受けて運営をしているところである。香取市から乳幼児やその保護者の相談も受けている中で、相談もなく県施設の利用促進を図るというのは、納得しかねる。

- ・児童発達支援センターの職員には専門性が求められるが、多くの自治体が福祉施設として設置していることからわかるように、民間施設では運営費等の面から維持が困難。

- ・一口に児童の発達支援といっても、市の組織で言えば子育て支援課、社会福祉課、健康づくり課、教育委員会、市民協働課等様々な担当部署がある。包括支援体制整備の下、横串を刺して事案に当たっていると思うが、司令塔となる部署がないと利用者は困ってしまう。各部署と事業者が連携して何とかしていきたい。

- ・高齢者支援に関しても、見守りや生活保護は社会福祉課、人権は市民協働課と分かれており、講演会等のイベント周知も十分ではない。横串を刺して仕切る部署が必要な点で問題は一緒であり、香取市で安心して暮らしていけるために統一したビジョンがほしい。

【事務局】

いわゆる縦割り行政になってしまっている現状を踏まえ、発達障害や高齢者支援について横の連携体制づくりを、ビジョンを持ってやってほしいという意見で承知した。担当課を交え検討を進めていきたい。

【竹蓋委員】

高齢者の孤独死も全国で増えているが、24時間以内に見つかればある程度社会とのつながりがあったと考えられる。警察も地域の見守りに期待していることを付け加える。

【議長】

千葉県の発達支援の取組は先行していると感じており、県内には一部の先進的な支援学校向けの専門の塾もあると聞く。親が自分の子どもをどうにか社会の中で育てたいという気持ちの裏返しであり、行政サービスを統一的に提供することは非常に有意義である。またそういった観点でまちづくりや移住・定住の施策を検討してみては。

【高橋委員】

竹蓋委員の意見について、計画の実効性がどの程度あるのか、市民にとって意味があるのかといった意見ではないかと受け取った。昨年の会議でも発言したが、計画自体の司令塔がどの部署で、総合的な判断はどのようにしていくのか。

【事務局】

専門分野の課題に対しては各課が業務に取り組み、それがどうなったのか・どうしていくのかをチェックしていくのが事務局である企画政策課である。チェック機能が甘いと言われればその通りという部分もあるが、各部門と連携して次にどう反映するのかという部分にも踏み込んで、チェック体制を構築していきたいと考えている。

【議長】

問題点に対して戦略をもって対処していくことが総合計画のあるべき姿かなと感じている。そういう観点から、今後の計画策定に対応していただきたい。

【橋本委員】

4-6(1)②地域に残る風習や慣習等の把握と記録

生涯学習課が開催している講義を受講しているが、専門性が非常に高く、職員のレベルの高さを感じる。さすがは、歴史の町・香取市だと思っている。資料によれば、広報執筆のための風習や慣習に係る民族調査は多岐にわたって、なかなか手が回らないので、民間移行を検討中とのこと。毎月連載の広報執筆の回数を緩くするなどして、市民からの歴史の質問に答えるべく、できれば、市で継続的に担当してほしい。

【事務局】

生涯学習課に確認はとるが、資料前段にあるように風習や慣習等をすべて把握して記録するのに余裕がないという意味だと考えている。すべてはできないとしても、少しずつ進めていく手はあると思う。

【議長】

そういった分野では、専門性の高い職員の育成を進めていただきたい。

議事（１）について拍手による承認を求め、拍手多数により承認。

5 その他

(1) 地方創生臨時交付金事業について【資料3、資料4】

資料3、資料4に基づき、事務局から説明。

内容について質疑応答

【高橋委員】

補助金としていただけるのはとてもありがたいことだが、おそらく給付を受け取っている低所得世帯の中には、保育料や副食費を納めていない方もいるので、難しいとはわかっているが先にいただくことはできないか。

【事務局】

切実な問題だということはわかっているが、給付の趣旨から未納の税金等への充当はできないことになっている。市の方でも大変苦慮している問題であるが、今回の給付についてはご理解いただきたい。

【議長】

生活保護受給世帯で、家賃を差し引いた後の額を支給している事例を聞いたことがある。そういう仕組みが本来的なのかもしれない。

(2) デジタル田園都市国家構想交付金事業について【資料5】

資料5に基づき、事務局から説明。

内容について質疑応答

【竹蓋委員】

「住民に寄り添った相談・支援業務を行うためのデジタル技術活用事業」

重層的支援体制整備事業を県や県内他市と合同で行っている中で、支援の入り口となる相談対応が一番大切。専門性の高い相談支援窓口がそれぞれあるが、複数の問題で悩んでいる方が多いことから、それを一手に受け付けるための体制づくりが重層の理念の一つである。そこでこのシステムの機能として、発言のテキスト化、キーワード予測、外国語の翻訳などを通じて、合理的に相談記録が作成できる。もともと児童相談所の業務が追い付かないところからできたもので、支援の手口探しというところで大変期待している。

【高橋委員】

あまり関係のない話になってしまうかもしれないが、選挙ポスターの掲示板を減らせないか。設置場所が昔から変わっておらず人通りが少ないところにもあり、ポスターが張られていない面も多い。場所によってはデジタル掲示板等を設置して、選挙期間中以外はイベント情報などを発信するなど、市民に届くものになってほしい。

【事務局】

公職選挙法との絡みはあるが、本交付金は幅広く使えるため、電子掲示板の活用について担当課に共有する。

【橋本委員】

相談業務の電子化として資料で紹介されている、音声マイニングシステム（音声文字起こし）は魅力的な試みだと思うが、適用範囲は社会福祉課だけなのか。消費生活センターの鈴木委員が担当する相談業務でも活用していけたらよいのでは、と思う。

【鈴木委員】

消費生活センターは重層的支援の委員になっていないが、関係がある場合は参加している。社会福祉課導入のシステムは課員以外使えない状態だと思うが、センターは国のシステムでAI活用などを進めているところ。

【事務局】

本システムは社会福祉班、生活支援班、こども家庭センターで活用しており、将来的には全国統一的に使えるよう試験的に実施している事業である。音声文字起こしは福祉だけでなく、広い分野で活用できるよう進めている。

（3）地域経済に係る意見交換【資料6】

資料6に基づいて、委員間の意見交換を実施。

【議長】

今回の会議開催に当たり、事務局から事前の意見聴取を行い、主な意見を集約して本日配付した。各項目から関係の深い委員にコメントをいただき、それに対し自由に発言、また必要に応じて事務局からも発言をお願いしたい。まずは農業について、伊藤委員お願いします。

【伊藤委員】

農業従事者の高齢化が叫ばれて20年が経過している中で、香取市では人・農地プランによる地域計画策定が進んでおり、法人化が進んでいる。しかし年間100軒ほど辞めていく農家があり、補助の有無など自治体格差が生じている状況である。そのような中近年はタブレット端末の導入による省力化に取り組んでおり、安心安全な農作物を提供するため、厳しい状況の中ではあるが頑張っている。

【議長】

商工部門から金親委員お願いします。

【金親委員】

農業分野の話があったが、商業も同じ状況。酒屋をやっているが昔 25 軒あったものが現在は 2～3 軒、近所の肉屋・魚屋なども高齢かつ後継ぎがいない状況で、商工会も大変な時代を迎えている。そんな中、商工会で創業塾を開講しているが、受講希望者は多い。ただ資金繰りなど簡単にはいかないようである。また住金団地は鹿島方面のベッドタウンとして機能していたが、企業があつて働くところがあれば商売が成り立っていく。今後は成田空港の機能拡張により雇用が増える話を聞いているので、そちらに向けて考えていかなければならない。

【議長】

続いて香取市にとって大きな産業である観光の視点で、大川委員お願いします。

【大川委員】

香取市合併時に 88000 人いた人口が、今年 7 月の広報を見るといよいよ 70000 人を割り、17 年間毎年 1000 人減っている状況。しかし住民の危機感があまりないように感じており、旧市町毎にどれほど人口が減ったのかを半年に 1 回程度でも出してもらえれば、危機感が出てくるのではないかと考えている。そのような中観光業により関係人口を増やし、定住人口の増加につなげていければと思っている。明日明後日に行われる発酵サミットは、1 万人の人出が見込まれている。香取市を全国にアピールできる機会だが、人口が少なくても住んでいる方々が誇れるまちづくりが一番の目的で、充実した生活と地域の魅力を発信するのが観光につながっていくのではないかと考えており、これからも観光を推進していきたい。

【議長】

福祉という観点で補足がありましたら高橋委員お願いします。

【高橋委員】

少子化が進む前提でどう保育所や小学校をはじめ子育て機能を維持していくのか考えないといけない。今後 50 年先にどういう人口分布になるのか踏まえて機能を集約するとか、それを踏まえて計画をしていっていただきたい。民間は民間で維持できるように考えているが、そこに人が集まる工夫をできればいいと思いながらなかなか資源がない。農業では米価が高騰しているが、国の管理もあり一時的でしかないと思う。THE FARMなどで農業＋何かといった遊び要素をうまく PR できれば後継者も出てくるのでは。産業振興が人口増加につながり、保育・教育へ波及する流れを期待したいが、それでも資源集中により効率的なまちづくりも必要で、成田とのアクセスを考えれば佐原香取 IC 周辺の活用などで、地域の特徴に合わせた盛り上がりに向けて頑張っていっていただきたい。

【議長】

私も佐原 PA の活用策として宿泊施設やレジャー施設などのほか、バスで成田に向かう方法もあると思う。可能性のある所から一つ一つ、香取市の持つ資源をどう組み合わせるか

重要な局面だと感じている。

【竹蓋委員】

意見聴取時の資料で、香取市内の従業者数の2番目が医療福祉分野。この分野の所得が増えないと香取市は豊かにならないということ。高齢者が増え続ける中、処遇改善を進めていかなければ地域福祉が維持できないどころか、地域自体も維持できなくなる。福祉における地域区分について行政側でも理解していただき、福祉産業は地域を維持していくために不可欠だということをこういう場で論議していただきたいと思っている。

【川村委員】

金融庁の方から担保や保証人に過度に依存しない融資の推進を求められており、各金融機関が一生懸命取り組んでいる。融資残高も右肩上がりとなっているので、何なりとご相談いただきたい。合併を経て香取市は広いエリアとなったが、それぞれの地域の特徴を活かして成長していくというのが地方創生ではないかと思う。金融機関としてできることを精一杯やって、まちを盛り上げていきたい。

【議長】

労働・雇用の面から、ハローワークの石川委員からお話を伺いたい。

【石川委員】

この4月からハローワーク佐原に勤務となり、地域特性として農業や商工業が主要産業と認識しているが、若者の定住率が低いと感じている。その中でも特に高校生は県内他市や県外に就職されている方が多い。地域の魅力を高め、若年層が将来に向けたビジョンを描けるようになれば良いと感じている。また医療福祉分野について、人手不足が顕著になっている。ハローワークとしてマッチングの役割を担っていくことに関して、改めて気持ちを引き締めている。

【椎名委員】

先日流山市のおおたかの森駅に行ったとき、駅周辺に乳幼児を連れたお母さんがたくさんくつろいでおり、衝撃を受けた。地元に戻ってくると子どもたちをなかなか見ない。ただ山田児童館と縁があり30年ほど携わっていて、多くの妊婦さんと話をする機会があるが、周辺市町と子育て世帯に対する支援の差が大きいとよく耳にする。香取市が好きだから出るつもりはないけれど、もう少し手厚い支援がほしいという意見もあり、2～3人育てている方も多い。流山市の10年20年後をあの子供たちが支えていくようになると思いながら、コンパスではちらほらお母さんたちの姿が見られるようになったが、どこに行っても子供たちの姿がある環境になるといいなと思っている。

【伊藤委員】

流山市にも農地はあり、つい最近10アール2000万円の値が付いた。香取市では50万で

売れたら良い方であり、自治体間の価値の違いが出ている。

【事務局】

たくさんのご意見に感謝する。企画部門で総合政策を進行管理していくという点で、本日いただいた意見を全庁的に共有し対応していく。裕福な自治体ではないので、限られた財源を市全体にどう配分し対応していくのか、組織横断的に取り組んでいきたいと思うので、今後も引き続きご意見をいただきたい。

【議長】

本日の会議内容を各部署へ問題提起として共有していただき、縦割り行政でなく組織横断的な対応を切に希望する。各部署への共有にとどまらず、問題に対する解決方法を長期的な視点から出していただきたい。

4 閉会

事務局の司会進行により、閉会。

以上